

第1回桑名市ブランド推進委員会

日時：平成30年7月19日（木）午後2時00分

場所：六華苑和館一の間

－ 会 議 次 第 －

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 報告

- ・桑名ほんぱく2018の概要について
- ・住吉地区のまちづくりについて

4. 議事

- ・住吉地区の空間資源を活用した社会実験について

5. その他

- ・事務局から連絡

次回会議の日程について

平成30年11月 日（ ） 時から

6. 閉 会

○事務局 定刻となりましたので、ただいまから、平成30年度第1回桑名市ブランド推進委員会を開催させていただきます。

本日は、大変お忙しい中をお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日の委員の出席者は、委員5名、専門委員3名であり、ブランド推進委員会条例第6条第2項の規定により、会議の開催要件は満たしておりますことをご報告申し上げます。

なお、本日午前中に開催いたしましたワークショップの意見整理のため、会議の開始時刻を当初の予定から30分繰り下げております。そのため中澤委員が途中で退席されることをあらかじめお伝えさせていただきます。ご迷惑おかけし、申し訳ございませんでした。また、この会議は公開でございます。メディア等の撮影についても許可をいたしておりますので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

それでは、ここからの進行を議長の伊藤委員長にお願いしたいと思います。伊藤委員長、よろしくお願いいたします。

○伊藤委員長 改めまして、こんにちは。暑い日ですが、この暑さを越えるぐらいの熱いまちになるように皆さんの忌憚のない意見をいただければと思います。

まず伊藤市長から開会にあたってごあいさつをお願いします。

○市長 皆さん、こんにちは。今日は大変暑い中、平成30年度第1回ブランド推進委員会にご参加いただきましてありがとうございます。今回から長島観光開発様から安藤前専務に代わりまして戸田様にお越しをいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

久しぶりにブランド推進委員会の委員全員が揃っています。先ほど委員長からもありましたように、熱い議論を交わしていただければと思っております。いくつかトピックスを申し上げます。桑名のブランド化というのをしっかり発信していこうということで、今年から新しい取り組みをさせていただいています。東京から発信しようということで、一つは、虎ノ門ヒルズの前の「旅するマーケット」というところで、桑名の食をPRするために出店しています。2020年東京五輪がありますけれども、この東京五輪を東京だけのものにせず、地方も元気にしようという市町村の仲間が570名いまして、その取り組みの一つとして、虎ノ門ヒルズの前に国土交通省さんに合法屋台をつくっていただきました。道路上に建物をつくって、そこで昼はランチ、夜はお酒を飲めるようにさせてもらっています。桑名市と鈴鹿市と菰野町の3市町合同で、飲食を展開させてもらっ

ています。桑名の食材として、ハマグリや桑名のもち小麦、岡村農園さんのトマト等を提供させてもらって、バルニバービさんという東京のレストランの方たちに、東京の方に合うようなメニューを開発し、7月7日からスタートさせていただいています。12月まで半年間かけて、桑名の食を東京でPRさせていただいていますので、皆さんの周りで関東近郊にお住まいの方、また出張などに行かれた際にはぜひともお立ち寄りいただいて、こんなことしているのかと感じていただけると嬉しいと思います。

それから、東京PR事務所の委託先が変わりました。今年からポニーキャニオンさんに受託いただいて、新しい手法を使って、全国にPRしていく取り組みをさせていただくことになりました。「Discover Japan」などで非常に感度の高い方々に向けて桑名をPRする取り組みをさせてもらおうと思っておりますので、また皆さんにもご協力いただければと思っております。私も1年に1回有名な方と対談をして桑名のPRをするという企画もございます。

さて、今日は皆さんに、まずブランドコンセプトなどを考えていただく抽象的な部分から、どのエリアを桑名の顔として、桑名のブランドを発信する場所として決めていくかということで、住吉エリア全体を桑名の顔として発信できるような場所にしていこうという具体的な部分に取り組もうとしていると思います。

今年の秋にはミズベリングの取り組みとして催すこととして、食をPRする、また国土交通省さんと連携をしてマルシェなどをしながら桑名をPRするという取り組みを新たにスタートしていくときであります。このあたりはハード面でもこれから変わってくる部分もあると思っております。ちょうど今も国営木曾三川公園の整備が進んでおりますけれども、あそこがミズベリングの会場となりまして、公だけでなく民間の方にもご協力をいただきながら、桑名のブランドのまさに基本、形となる場所としてハード面・ソフト面でもしっかり整備をしてまいりたいと思っておりますので、ぜひとも皆様方のご協力お願い申し上げたいと思います。

今日は、ほんぱくの概要、住吉地区のまちづくりについて、社会実験につきまして議論いただくということになっていきます。委員の皆様方の様々な自由闊達なご議論をいただきまして、桑名のブランドが前に進むような会になりますことを心からご祈念申し上げたいと思います。よろしく願いいたします。

○伊藤委員長 ありがとうございました。いろんなことが少しずつ動いているということが市長の挨拶の中でもびびびしと感じることができました。

昨年度まで長島観光開発さんから安藤前専務に長らく委員をやっていただいておりますが、5月に退任されまして、その代わりとして戸田委員に入っていただいております。先ほど市長からもご紹介ありましたが、戸田委員からご挨拶いただければ幸いです。

○戸田委員 初めまして、戸田といいます。前任の安藤に引き継ぎまして仰せつかりました。微力ではございますが、一生懸命頑張らせていただきますので、今後ともよろしく願いいたします。

○伊藤委員長 長島観光開発さんなくして桑名はないということで、桑名のブランドの中心となる方なので、存分に意見だけでなく行動にも移してほしいと思います。

それでは議題に入っていきますが、議事次第のとおり進めていこうと思います。3番目の報告事項からお願いします。まず桑名ほんぱくの概要を事務局から報告させていただきます。

○事務局 桑名ほんぱく2018の概要について説明させていただきます。お手元の資料をご覧ください。まず1、パートナーの応募状況について報告させていただきます。今年は48団体が参加し、53プログラムを提供していただくことになりました。昨年度と比較しますと参加団体は6団体の減、プログラム数は10個の減となりました。昨年よりも参加が減少した要因としましては、パートナーからエントリー料を徴収することになったことでもあります。既に秋の予定が入っておりエントリーが難しかったという意見もありました。したがって、エントリー料を徴収するから参加をやめたというネガティブな意見というのは意外と少なかったと感じております。

次に項目2についてです。53プログラムの企画内容から5つのカテゴリーに分けて整理しております。この中で食をテーマにしたプログラムは毎年人気で、カテゴリー別では最も多い16プログラムとなっております。

次に項目3、ガイドブックへの企業広告掲載の申込状況について報告させていただきます。昨年度からガイドブックへの広告掲載を募集しておりまして、昨年度と比較しますと7社増の21社、金額は昨年よりも47万円増の155万円の広告を集めることができました。また本日まで出席いただいております中澤委員の桑名信用金庫様におかれましても、多大なるご協力をいただいております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

次に項目4についてです。ほんぱくの運営に関して、昨年度から大きな変更点が2点あります。まず一つは先ほども触れましたが、パートナーからエントリー料を徴収する

ということで1万円徴収しております。ただし桑名市役所がパートナーとなる場合や、パートナー自身が広告主となる場合、またパートナー自らが営業をかけて4万円以上の広告を集めた場合は、エントリー料を免除としております。その結果、今年のエントリー料は46件46万円となりました。また先ほど項目3で企業広告21社155万円と説明させていただきましたが、このうちパートナー自らが営業して集めた広告というのが5社8万円となっております。次に変更点の2つ目ですが、将来的に桑名ほんぱく事務局の民間への移管を見据えてパートナーに事務局の運営面でのサポートをお願いしたところ、6名の方が名乗り出ていただき、桑名ほんぱく部という形で活動をしていただいております。

最後に、項目5の桑名ほんぱくのオープニングセレモニーについてです。今年は9月21日から23日まで国土交通省木曾川下流河川事務所様と桑名市が共催で桑名ほんぱくミズベ・マルシェを桑名七里の渡し公園で開催します。そのマルシェの会場内で、初日となる9月21日金曜日の夕方6時30分からオープニングセレモニーを開催することになっております。去年はマスコミ向けとしましたが、今回はマルシェに来場されるお客様をターゲットと考えております。一連のセレモニーが終わってからは、お客様と直接お話をし、ほんぱくのPRをしようと思っております。そのセレモニーの運営に関しては、先ほど説明しました桑名ほんぱく部の皆さんと協議しながら進めている段階です。ブランド推進委員の皆様におかれましても、ご都合がよろしければオープニングセレモニーにお越しいただきますようよろしくお願いいたします。

以上で桑名ほんぱく2018の概要説明を終わらせていただきます。

- 伊藤委員長 ありがとうございます。基本的にパートナーが減っていくことはさほど問題ではないと思っております。こういったまちづくりに関すること、ブランドに関することですから、量よりも質を担保し継続的にやれるかどうかということが非常に大事です。1万円がさほど苦ではないということであれば、持続可能な仕組みにしていくことのほうが大切なので、今のところ、そんなに問題なく進んでいるのではないかと思っております。何か委員の皆さんでご意見ありましたらお願いします。
- 市長 先ほど委員長に言ってもらったように質だと思っております。ついにハマグリコンテンツが今年に入ると伺っています。はまぐりプラザさんがやってくれるものができましたので、しっかりと桑名らしくなっていくのではないかと思っております。
- 伊藤委員長 次に、住吉地区のまちづくりについて、事務局からお願いいたします。

○事務局 住吉地区のまちづくりについて説明をさせていただきます。資料は桑名市ブランド推進ビジョンというカラー刷り両面のものになっております。こちらの資料は委員長に作っていただいたものになっておりますので、また補足等ありましたらよろしくお願いいたします。

これまでの取り組みとしまして、まずロゴマークとブランドコンセプトブックの作成、そして桑名ほんぱくを行ってきております。

今後の取り組みといたしましては、①ブランド推進協議会（仮称）の設立を考えております。これまでほんぱくも含めブランド推進課で運営等やっておりますが、行政だけではなく民間の方の力を取り入れていくということを考えております。民間の方々が主役になったまちづくりを行うことで、桑名がより良くなっていくと考えております。そしてその先に都市再生推進法人の設立も視野に入れていきたいというところです。

②統一されたデザインコードの展開ということで、キャッチコピー「本物力こそ、桑名力。」のテーマカラーであるマゼンタ、シアンを使用しましたロゴマークを定めております。今年度、桑名ほんぱくのロゴマークもその色に変更して使っています。

③水辺社会実験による拠点づくりということで、木曾三川沿いの堤防、国土交通省様が管理されています国営七里の渡し公園を魅力ある水辺空間として、ロゴマークやテーマカラーなどのデザインを取り込みながら桑名の新たな発信力のある場所として、旗揚げを行っていくことを今年度考えているところです。そして、今後のビジョンといたしまして、今年度社会実験を行い、いずれは水辺エリアから九華公園、寺町通り商店街、そして駅前まで広げていき、事務局等を担っていただく民間の方々に入っていくことを一つの工程として考えています。

先ほどまではソフトの部分でしたが、設備とか建物の統一されたデザインコードの展開も考えていく必要があると思っております。資料には一つのデザインコードとして「折衷」という言葉を使っておりますが、江戸時代の桑名城、明治・大正の六華苑、諸戸氏庭園、そして昭和の寺町通り商店街というものが桑名の本物としてあるわけですし、それらを融合させていくというところに一つの桑名らしさを見出していきたいと思っております。デザインの部分は、建物の低層階等を統一したデザインでまち全体をつくっていくことで考えていただいています。

資料の説明は以上です。

○伊藤委員長 ありがとうございます。基本的には段階的に進めていくということで、

まちづくりにどれだけつなげていくかが大事な視点だと思っています。先ほど都市再生推進法人という言葉が出てきましたが、どういったものかというのを簡単にまとめたいと思います。

「本物力こそ、桑名力。」というキャッチフレーズがあるので、そういうまちづくりを進めていくと思いますが、今桑名市が打ち出しているのはブランドづくりと言っても過言じゃないかもしれません。一昔前まではコミュニティーを作っていくこと、そしてエコロジーだとか、自然保護だとか、環境に配慮していくことが従来のまちづくりと考えられていましたが、その中には例えば高齢者のボランティアだとか、地元町内会の慈善事業だとか、お金を儲けるという発想が全くなかったわけです。昨今では、経営的な側面がまちづくりにも必要であると言われていています。今は自分の会社だとか、自分のところはマネジメントするけど、一歩先に出た道路や公園は税金で市役所がやってくれるという考え方ではなくなってきています。自分が住んでいるまち、あるいは会社があるエリアのまちづくりを自分たちが主体的にやっといこうと、そのためには公益事業だけではなく、いかに収益を獲得していくかというのが重要な視点になっています。

では、収益をどうやって獲得するかですが、その一つの指標として都市再生推進法人というのがあります。都市再生推進法人というのは、何らか法人格を持ってまちづくりに寄与して頑張っている団体が、ここであれば桑名市に認められて申請書を出していけば取る可能性というのは十分にあります。急に今日作ったから明日出してとか来年度出してというのは難しいです。何らか協議会か委員会のようなものからスタートして徐々に法人化しながら推進法人を取っていくというのが基本的なパターンです。推進法人を取ると、都市再生整備計画の提案ができます。今までは、このまちをこんなふうにしたい、この道路をこんなふうにしたい、公園をこう活用したいというときに、民間の方は桑名市にお願いする立場でした。ところが都市再生整備計画を作るということは、桑名市と肩を並べて同じ目線で取り組んでいくことができます。

もう一つは、今まで公の場には広告を打ったり、イベントの収益を得たり、物販・飲食などで儲けようというのは御法度でした。しかし道路は交通手段だけでなく、これからは賑わいだとか収益を生み出すスペースとしてどんどん使ってもらおうと、活性化していこうということで、国土交通省と都市利便増進協定というものを結ぶことができます。道路上でカフェを運営するとか、公園の中に物販や有料のイベントスペースができるとか、いろいろなメニューが揃っています。

この2つをとるために、都市再生推進法人を取る必要性があると思っただけだと理解はしやすいかと思います。

これを行っている例は全国的にはたくさんあります。例えば東京では三菱地所、三井不動産、森ビルと大手ディベロッパーが推進しています。また博多とか浜松とか、沿道の鉄道会社がやっているのも多いです。富山だと行政が幾らかお金を出してまちづくり会社を推進しているところもあります。純粋に民間だけでまちづくり会社をやっている例というのは数少なく、おそらく名古屋の栄ミナミエリアが初めてであり、今のところ唯一と言っても過言じゃないと思っています。どんなところかを説明させていただきますと、基本的には白川公園から久屋大通り公園、いわゆる栄の南側のところ約8.4ヘクタールくらいです。住民主体の町内会、自治会、商店街が基本となっている商店街組合、まちづくりの組織、これらが一緒になって委員会を立ち上げて、一つの親会になっています。逆に社会実験やいろんなイベントの活動を推進していくのは、社会実験協議会を立ち上げて実行していく。その代わりそれを承認していく組織として委員会がある。その委員会には国土交通省さんや、警察や消防、地方議員から関係部局の方に入ってもらう。それくらいの形で、みんなで合意して行う姿勢になっています。社会実験協議会がまちづくり会社になり、進んでいるということです。14町内会、5商店街、3組織が一緒になって、自治体のお金が1円も入らずにできているのは間違いなく栄ミナミが最初です。

こういったやり方は桑名でも十分できると思います。大きな企業や桑名市が出資するのではなく、皆さんの力によってこういうまちづくり会社と都市再生推進法人をとることができるだろうと思います。一朝一夕ではできませんので、まちづくり会社になった、そして都市再生推進法人を取ったというホップステップジャンプで3年かけてやっています。最初に委員会で提示しながら、どんなことを社会実験するのか、次の年は実験したものが検証されて、それが会社の事業として継続されていくというイメージです。

いろんなイベントが四季折々ありまして、音楽祭、盆踊りみたいなものも十分まちづくりに寄与します。重要な視点としては、民間の皆さんで運営しているということ、もう一つは長期ビジョンを早い段階から作っていることです。都市再生推進法人を取ったときの整備計画に使うこと的前提条件になってくるのもありますが、最初からマスタープランを作っていくことがかなり大事な話だと思います。栄ミナミでは、くの字形に曲がっているバイクの形を、ロゴマークやお土産や街路灯というヒューマンスケールや都

市スケールまでを統一したデザインにしたり、各通りの個性を出した色や演出をしていたりしています。今ブランド推進委員会でも将来像を描きながら、社会実験で何ができるのかということのを両輪でやっていきます。

ここで来年でもできることを見定めていくというのが大事だと思います。街路灯は商店街組合が所有して管理しているもの、市が所有しているものもあると思いますが、まず自分達でできるものは変えていこうと街路灯一本から始まりました。2年かけて150本全部が変わっていますが、その地域へ行くと街路灯が変わるだけで雰囲気は全然違います。夜とかV字形がずっと並ぶので圧巻です。道路上には、いつ出来たか分からないオブジェだとか低木の植栽帯だとかいろいろあります。こういうものを取っただけで歩道が広がるので、広がった歩道に白線をつけただけで駐輪もかなりきれいに整備されます。空いてきた歩道で何か新しい事業ができるのではないかとということで、デジタルサイネージや有料駐輪システムを設置しています。これは全国で初めて歩道上に作ったものですが、大きなスマートフォンがあると思ってください。タッチパネル式となっているので情報発信や広告掲載ができて、いろんな方が見に来ています。有料駐輪システムやシェアサイクルも重要な収益源になってきています。また道路上にカフェテリアみたいなものを作るということも十分可能です。アメリカのシアトルの例ですと、レストランやバーの前の道路に市がカフェテラスみたいなものを作ります。そこをレストラン側がお金を出して借りています。レストランにヒアリングをすると、予約は外から埋まっていくそうです。賑わいが街ににじみ出てくる感じになっています。何が言いたいかというと、都市政策と産業政策を両方を行っていかなくてはいけない。今、桑名市役所では部局の構成から、都市政策と産業政策を分けずに一緒にやっけていこうとしていることが非常にいいと思います。都市再生推進法人を取ると、自らの手段を使ってまちづくりを牽引することができるということを念頭に置きながら、栄ミナミエリアのようなことが桑名でも十分にできると思っています。私からの補足説明を入れさせていただきました。この上で委員の皆様から何かご意見ありましたらお願いします。

- 中澤委員 都市再生推進法人の下にブランド推進委員会という形になりますか。
- 伊藤委員長 委員会は我々の組織なので、その下に協議会ができるとすると、そこがまちづくり会社だとか社団法人になり、都市再生推進法人の認定を受けるということです。
- 中澤委員 都市再生法人がトップになるわけですね。

○伊藤委員長　　まちづくり会社が認定を受けるので、まちづくり会社が都市再生推進法人の冠を持ちます。

○中澤委員　　わかりました。ありがとうございます。

○伊藤委員長　　違う組織ができるというわけではない。1つの組織が2つの法人格を持つと言ったほうが分かりやすいですね。何を指すために協議会を立ち上げようとしているのか、何のためにブランド推進で桑名ほんぱくをやっているのか、これらがまちづくりのコアになって、後々は収益事業とともに独立していくといったイメージを持ちながら、社会実験やまちづくりに取り組んだほうがいいという思いを共有させてもらえればと思います。

4番目の議事に移りたいと思います。内容について事務局からお願いいたします。

○事務局　　住吉地区の空間資源を活用した社会実験について説明をさせていただきます。今回桑名ほんぱくミズベ・マルシェを七里の渡し公園側で、桑名ほんぱくミズベ・バルを住吉浦休憩施設のある川側で開催する予定をしています。国土交通省さんと桑名市の共催で考えています。開催期間は9月21日の夜から23日の夕方まで、ミズベ・バルの方は21日の夜に乾杯等ができればということを考えております。そして同日に、桑名ほんぱくオープニングセレモニーも開催する予定をしています。

現在、駐車場や交通関係のアクセス等も検討しております。三重交通さんのバスを使って桑名駅から住吉エリアまで来ていただけるような形を考えており、また駐車場は揖斐川河川敷等を使わせていただけないか調整しているところです。

マルシェは、国土交通省さんから委託された業者にキッチンカーやブースの手配を既にさせていただいておまして、全体で30を超えるお店に入っていただく予定をしています。

A4カラー刷りの資料は、ミズベ・バルの資料となります。こちらも伊藤委員長の学生さん等に作っていただいた資料を使わせていただいております。まず写真映え、インスタ映えとなるような設えにしていこうと考えているところです。開催場所が堤防の上から防災栈橋まで高低差がありますので、高低差を活かした写真を撮りたくなるような水辺空間の演出を、水面には光を用いた演出も考えていきたいと思っております。

そして什器は、地域の木材を用いてデザインを統一したものをテーブルや、椅子、ベンチ、看板等に用いていきたいと考えています。その案としていくつか写真を挙げさせていただいております。こちらは風間委員からご提案をいただいた写真等を掲載させて

いただいております。

ミズベ・バルでどういうことをやっていくかにつきましては、本日午前中にワークショップを行いまして、地域の方々、一部の委員の方々にもご出席いただき、様々な意見をいただきました。お手元にワークショップで話し合った内容等を列挙したものをお配りさせていただきました。内容につきましては全体のコーディネートを風間委員にさせていただきましたので、また後ほど補足をしていただければと思います。

1枚目では、住吉地区で今年度のイベントをどのような協力ができそうか、どんな協力をしてほしいか、ハード面についての回答になっております。黒田委員からは、ブランドカラーの統一、カラーを反映したアクセサリを参加者に身につけてもらう。国土交通省の日置様からは、什器の色味の統一感等のご意見をいただいております。

2枚目は、ソフト面でどんなことができそうかの回答になっております。東部商研、歌行燈の横井様からは青年団等へ発信、とらや饅頭の安達様からはハマグリ鍋などを作ってはどうかというご意見をいただいております。松尾委員からも三重の食材を用いたバーベキューを単発ではなく2週間くらいの期間でやってはどうかというご意見をいただきました。

3枚目は、水辺社会実験でどんな方を呼んだらいいかという質問になっております。国土交通省の日置様からは赤須賀漁港の方々、コンサルをしていただいておりますフードデザイナーズネットワーク（FDN）の吉富様からは、桑名ということで鋳物関係の方と、食べ物と一緒に活用できるような仕組みを出していくといいのではないかとご意見をいただいております。

様々なご意見をいただきましたので、また委託会社の方々と協議をしまして、実際にどういった設えができるのか検討していきたいと考えております。9月にイベントを行った後、10月に2回目のワークショップを開き、今後の方向性等を見極めていきたいと考えております。

以上で説明を終わらせていただきます。

○伊藤委員長 私の感想としては非常に前向きな議論ができたと思っています。運営していただいた風間委員からワークショップの報告も兼ねて感想をいただきたいと思えます。

○風間委員 松尾委員に住吉地区のお話をしていただきましたが、ワークショップには、他にもお店を営業されているの方々、船の営業をされているの方々、OTONAMIEと

いうメディアをやられている福田さんという女性の方にご参加いただいて意見をいただいたということで、最初の会としてはすごくよかったと思っております。

平成28年度に行われていた社会実験では、河川環境を使うための手続の一元化に取り組もうとされていましたが、なかなか難しいと実感されたということで、今年度の社会実験はその課題を踏まえて、今後協議会のような形で、自主的に本業を通じてこの地区を活用していきたい、たくさんの方に資源を楽しんでいただきたいという思いのある方々を巻き込んでいく仕立てにしてはどうかとご提案をいただきました。FDNさんがプロポーザルで受託されまして、全国でこういった取り組みを行っているプロフェッショナルな人達です。食を通じたイベントということで、水辺の空間でいかに桑名の食材を楽しめるかという意見をいただいた次第です。様々な意見をいただきましたが、質問3の社会実験に呼んだほうがいいと思う方を挙げてくださいという問いかけに対して、具体的にご意見をいただいたのがよかったと思っております。社会実験を契機に、来年度以降桑名あるいは住吉地区に主体的に協力いただけそうな方や地元の方も出ていたので、そういうところにはすぐにでも連絡をさせていただけたらと思っております。

黒田委員からもご意見をいただいておりますが、この社会実験の意義というのは、ぱっと来ただけでは外の方には伝わらないですし、食材に関してもふだんのお料理とどう違うのか、どういうふうに食べることでより楽しんでいただけるかというところで、このイベントのホスト役になる方が重要だと思っております。今回クリス委員が出席されたので、私の望みとしては奇跡的にこの2日間のうち1日でもクリス委員がいてくれたらすごくいいなと思っております。以上です。

○伊藤委員長 ありがとうございます。クリス委員みたいに発信力のある方に来ていただいて、自らマスメディアを通して発してもらおう。今回はまちづくりをにらみながら、まずは情報発信をしてみんなに知ってもらうことが一番の目的と思っております。

○クリス委員 今まで名古屋市、愛知県、関ヶ原、福井県等と一緒に、同じような委員会のメンバーになっていますが、他のところはいつも早くにたくさんの情報が送られてきます。雑誌とかパンフレットとかメールでも週に1回くらい色々な情報が送られてきます。委員会で集まる前に情報が十分に入っているとか、考える時間があるから、会議に参加したときに色々なアイデアとか情報を同時に皆さんと発信できます。毎月広報くわなが送られてきますが、ちょっと情報が足りないという気がするから、僕も発信できないです。水辺のことについては、前回この会議でその話をスタートして、色んなと

ころを見て、世界中の多くのまちでも水の周りはあまり整備していないところが多いです。例えばシンガポールのマリーナベイとかシドニーのハーバーも結構きれいなところですが、整備が遅れているからこれから大きな整備が必要です。僕のふるさとアデレードでは、ビーチから離れた300メートルは元々川ですが、湖になって長い間あまり整備してないからちょっと汚い状態にありました。最近はそのエリアがだんだんきれいになって周りに豪華なマンションとか、ホテル、文化施設というところがどんどんでき上がっています。観光スポットになるために、サイクリングルートとか水上バス、プレジャーボートのサービス等はもちろん、イベントも行っています。このエリアも例えば日本全国のホバークラフト業界が川辺にベースしているので、一度使ってはどうかというアイデアがあります。インターナショナルマラソンとか、バイクレース等詳しくて結構いい情報は「NEXTOKYO」という本にあります。これは読みやすくて分かりやすくて色んなアイデアもあるので、ぜひチェックしてください。ぜひもっとたくさんの情報をお願いします。よろしくお願ひします。

○伊藤委員長 桑名市役所を代表して、桑名市ブランド推進委員長として本当に申し訳ありません。本当はクリス委員が本委員というだけに、どんどん球を放り込んでいけばいいと思うのですが、放り込まないとゴールにつながらないですよ。

あと、将来的なことを見たときにこれはよく言われますが、オリンピックがあつたり、リニアが開通したりするのをにらむと、世界から来るコンテンツというのをある程度意識していかななくてはいけないというのはクリス委員がおっしゃるとおりだと思います。実際ワークショップにも参加していただきました松尾委員からお願いします。

○松尾委員 僕もワークショップに参加させていただきました、住吉地区の再開発、ブランドづくりといった部分で、一旦行政が主導で動いている中、地区を盛り上げていくのはそこで商いをされている方、住まわれている方たちの力なくしてはというところもあって、今回初めてこういう場を設けられたという既成事実ができただけで、すごく大きな一歩ではないかと思っています。

その中で、住吉地区の方たちが何かわくわくできるまち開発になっていくことが原動力になると思っています、こちらからの提案だけでなく、並走して作り上げていく時間をもっと作っていくことが必要ではないかと感じました。ただ、思っていた以上に言いたいことを言われている方たちが多かったので、本当に有意義な時間だったと率直に思います。以上です。

○伊藤委員長 意外とフレンドリーかつ前向きな議論ができたと捉えていいですね。地元の方と一緒にやらないと、単なるイベントに終わってしまうとよくないと思うので、その辺のつなぎ役を松尾委員にも期待したいところです。ありがとうございます。

ここで中澤委員が退席となりますので、その前に一言いただきたいと思います。

○中澤委員 先ほどクリス委員がおっしゃられたように、水上バスとかプレジャーボート等は必要だと思います。NTNさんのフランス工場を見させていただいたときに、アヌシーという街が素晴らしくきれいでした。水が透き通っていて、アルプスの麓ということで船も置いてあり、とてもメルヘンチックな街でした。それを桑名市に持つてくるというのは非常に難しい話ですが、この住吉という地区は桑名の財産だと思います。たまたまかもしれませんが、八間通が一本道でずっと来ていますから、そこからのコンセプトをもう少し作っていただいて、桑名に来ていただいたお客様、地元の間人が必ず住吉地区に介入できるようなまちづくりをぜひともお願いします。それとナガシマリゾートさんから必ず桑名へ誘客できるようなコンセプトを、委員長のお力も含めて皆さんで頑張ってくつていただけるとありがたいです。

○伊藤委員長 ありがとうございます。途中退席です。

○中澤委員 大変申しわけないです。

○伊藤委員長 中澤委員からあった話ですが、午前中はアムステルダムや名古屋市の例を挙げて、みんなどうしても海外だからとか大きな街だから出来ると思いがちですが、表現の仕方や、仕立て方が違うだけで、骨子の考え方みたいなものは十分にどこでも真似できることがあると思っています。私の先輩たちはどちらかというと、パリへ行ったら表層的なパリを真似して、疑似イタリアとか疑似パリを造ろうとしていましたが、そこは違って、パリだったらパリの何がいいのかというところをちゃんと押さえていけば、桑名でも転用したブランドがつくれて、まちづくりができるということです。

では黒田委員お願いします。

○黒田委員 午前中のワークショップは私も参加させていただいて、住吉の関係者の方のリアルなお話やすごくおもしろいお話が幾つもありまして、ここでイベントを行って桑名の本物力を実感してもらおう仕掛けが必要だと思いました。先ほど風間委員ともお話していたのは、それを引き出していくホストとかファシリテーターみたいな人がいないと、なかなか自発的に出てくるということも難しいでしょうし、イベントで楽しく自分も参加したいとか、次も自分が仲間になりたいという仕掛けを仕組んでおけば、

また広がりが出るのではと考えています。

今日桑名といえばハマグリという話があって、渡し船をやっていたらっしゃる方から、ハマグリの上手な焼き方とか食べ方とかいろいろ教えていただきました。そういうことって知らないじゃないですか。それを実体験してもらって、できれば場所としては歴史と文化があるところなので、歴史も踏まえた食の提供を企画できる人を巻き込むことがすごく大事だと思います。いろんな老舗の和菓子屋がありますから、そういう部分もプラスすると楽しいかと思いました。ワークショップにしる、イベントにしる、できるだけ次に繋がる仲間づくりを意識することがいいと思っています。

○伊藤委員長 ワークショップを外から聞きながら、黒田委員の発言を聞いていまして、確かに今学生たちが描いた絵の中にはフォトジェニックに撮れることしか考えてなくて、何かインタラクティブ性みたいなものが少し足りないとは思っておりました。

あと、黒田委員は当初から和菓子の話をされていました。やはりブランドでまちづくりみたいな話になると、いきなりハード整備というのは難しい中、食をテーマにして発進していくというのは、セオリーとしては理に合っていると思っています。

戸田委員何かご意見とかいただけますでしょうか。

○戸田委員 中澤委員が言われたことと重なりますが、私どもの施設も、ある施設から始まって、少しずつ施設を広げて、リゾートという名前をつなぎを大事にして今があると思っています。私も桑名出身ということで、この地区の良さをそれなりに理解しておりましたので、弊社とのつながりがもう少し上手にいかないものかというのは個人的には考えて、仕事の中でも過去には営業の経験もありましたので、色々アプローチしたこともありました。やはり一番のネックはどうしても交通手段にもう一つ不備があるところでした。正直なところ自分の施設の魅力をアピールするだけではこれ以上広がらないのではないかと思っています。私どものお客様でも近郊のいいところをぜひ見聞きたいという方はたくさんみえるわけです。そういうところをいかにアピールしていくか、発信していくかというところで、今お話したような点が過去から気になっておりましたので、この機会に何らか取り入れていただきたい、方向ができればいいと思っています。よろしく願いいたします。

○伊藤委員長 ありがとうございます。戸田委員が桑名出身ということなので、もっと球を放り込んでいったほうが事務局や市役所の皆さんはいいと思います。色々依頼したいことがあると思うので、前向きに進めてください。

ワークショップも参加していただいております諸戸副委員長から総括的にご意見いただけますでしょうか。

○諸戸副委員長 ワークショップを拝聴させていただいて、今回はターゲットがしっかり絞られているというのはすごく感じました。桑名の内側の人たち、それから外に向けて半分、半分で桑名を応援してくれる人たちを増やそうというコンセプトではっきりしていたことはすごくいいと思います。

あとは、皆さんがおっしゃっていたようにホスト役ですね。特にお客様は外から呼ばれるわけですから、そのときにホストの顔が見えないというのはちょっと寂しいという気がします。いろんな食材も出てくるでしょうし、流れの説明とか、何でこういう料理なのかという、見て食べるだけ以外の味つけみたいな部分があるとより魅力が伝わると思いました。以上です。

○伊藤委員長 ありがとうございます。ホスト役は、もちろん市長もだと思いますが、クリス委員みたいな発信力のある方、我々ブランド推進委員もホスト役。確かに風間委員からもありましたようにホストが誰だということを明快にするべきですよ。

○市長 50人ですよ。5人を1人で対応するより、50人全体のホスト役のほうがしやすいという気がします。50人全体でこういうものを持ってもらいたいというコンセプトのもとであれば、それはできるかもしれないです。当然クリス委員にもしっかりとご協力をいただきたいです。

○伊藤委員長 改めてそういった意味で、ホストとしての役割と、何を一番伝えるのか。もちろんインスタ映えする写真を撮ってもらうというのはありますが、どの写真がうまくメッセージとともに伝わるか、そのメッセージを我々はちゃんと送っていないといけないということを再認識しました。そのあたりを事務局のほうでも詰めていってほしいと思います。

議題はこれで終わりです。何か全体を通してブランド推進委員会をこうしたほうがいいのか、もう少しこうしたほうが良いというような助言をいただければと思います。

○クリス委員 先ほどと同じですが、私たちがもっとこのまちの価値観になるような状態、たくさんアイデアとか桑名のために頑張りたいから、アイデアを考える時間とか、会議が必要だと思いますから、もっとコミュニケーションが欲しいです。

○伊藤委員長 ブランドづくり、まちづくりに一番大事なのがコミュニケーションですから、それが欠けている以上皆様も反省して頑張りましょう。

以上で議事次第は終わります。最後にその他で、記載や資料があるわけではありませんが、内閣府の地方創生の補助金みたいなものが動き出しております。それは大都市だとか、田舎だとかいうわけではなく、利便性もよくて桑名のようにいろんな資源があり、海外の富裕層の方々に来てもらえる、そして多くのお金を落とすとしていってもらえる、そんな可能性を秘めた街に対して3年間にわたる補助制度みたいなものが動いています。桑名ほんぱく事務局を市役所でやっているだとか、社会実験も進めていただいています。風間委員やうちの研究室はほぼボランティアみたいな状況を打破しながら本当の意味での本物というものの、そして今日言った収益事業をどれだけ増やしていくか、そのための準備期間、準備態勢を整えるという意味でも国の制度を活用しながら検討した道筋を立てていってはどうかと思っております。私自身は前向きにそういうのを議題にしながら次回以降検討していきたいと思っております。

総括を市長からいただきたいと思っております。

○市長 今日それぞれ委員の立場から、貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。反省する部分はしっかりと反省させていただいて、形にできることをしっかりと形にしていこうと思っております。また、秋に向けての取り組みというものが市民の、特に住吉エリアの皆さんも同じような思いを持っていただけて進めていけると思っておりますので、我々もしっかりと気を引き締めていきたいと思っております。委員長から言っていただいたように長期視点を見つつ、まずできることをしっかりとやっていくということ、こつこつ続けていくことで桑名のブランド化につながっていくと思っております。

また、水辺を使ってまちを元気にしようと思っておりますと、住吉エリアと長島エリアをつなぐということが、具体的に見えてくる要素になってくると思っておりますので、こういうこともしっかりと視野に入れながら、まずは今できることをしっかりとやっていくということを頑張っていきたいと思っております。様々なご指摘いただいた点を我々もしっかりとクリアしていきながら、着実に桑名のまちのブランド化が進むように頑張ってもらいたいと思っておりますので、今度ともどうかよろしくお願ひします。今日はどうもありがとうございました。

○伊藤委員長 以上で今年度初めてのブランド推進委員会を終わります。長時間ありがとうございました。事務局から連絡ありましたらお願いします。

○事務局 委員の皆さん、長時間のご議論ありがとうございました。いろいろ情報提

供等をこれからもさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは事務局から事務連絡をさせていただきます。次回第2回目の委員会を11月に開催させていただきたいと思っております。それでは第1回ブランド推進委員会を終了させていただきます。どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。

(閉 会)